

「注文を間違える料理店」行ってきました

「知り合いのNHKディレクターの小国士朗さんが期間限定で企画したステキなレストランがあるんだよー！」と誘ってもらいました。宮澤賢治大好きの私、聞いた瞬間ネーミングに惹かれ『注文の多い料理店』のパロディ企画？すごいおもしろそー！！と、概要も聞かずにとりあえず二つ返事でのりました。調べたのですが、その時はまだよくわからず、わかかないのも楽しいなあとあって当日を楽しみに。

当日、レストランに到着。

白いオシャレなレストラン。ロゴの「間違える」の「る」が横になっていたりしてかわいい、わくわく。

いざ、店内へ。

「いらっしゃいませ〜」と、みなさんがめちゃくちゃあたたかくむかえてくれる。

清潔感がある店内、とてもやわらかい空間。

なんだろうこの居心地の良さ。みんながニコニコしているからかなー

ピアノの横のテーブルに案内していただく。さあて、なにが起こるのかなとわくわく。

お水を出していただいたり、注文をとっていただいたり。

あれ、そーいや配膳をしてくださるスタッフさんたち、年齢高めの方が多みたい。もしかしてこの企画、地域密着型でやっていて、スタッフさんもお近所のみなさんがボランティアで来てくださってるのかな？なんて思ったりして。

そのかわいらしく優しい女性スタッフさんが、代わる代わる声をかけてくれたり笑いかけてくれたりする。と、こちらも笑顔がこぼれる。

こまめに水を汲んでくれる姿を見ながら、なんとなく母を思い出したりして。

スタッフさん同士も、お互いがお互いを思い合っ気にかけている優しい空気。

今回は二日間限定のプレオープンだし、スタッフさんも緊張しているのをサポートしあってるのかもなー、なんて想像して、そのあたたかさにほんわりする。

入った時に感じた圧倒的なあたたかさは、こうやって“みんながみんなを思いやってるから”なのね〜、なんて妙に納得したりして。

いよいよご飯がテーブルに。

誘ってくれた友達のナオが頼んだエビの水餃子が先にくる。すごい！プリプリでおいしそう。

これは私の注文したピザもすごく美味しいに違いない。わくわく。

と、そこへハンバーグが到着。

私「あれっ」

運んで来たスタッフさん「あれっ？」

ナオ「あれっ？」

周りのスタッフさん「あれっ？」

一同、笑う。

と、すぐに「〇〇さん、ハンバーグ、あっちよ～」という声が聞こえ、「あっ、そうか！」なんてスタッフさん。和やかな雰囲気の中でハンバーグは正しい場所に届けられていきました。どこまでがコンセプトなのかわからずに、一段とわくわくする私。

すぐあとにピザが来てナオと

「うー、店員さんほんとに間違えちゃってたねえ、わー、ピザおいしー」なんて言いながら食べ始めたところ、ナオの肩越しに貼ってあったパネルにふと気付きました。

そこで初めて、このレストランの配膳スタッフさんはみなさん、認知症を抱えているのだということを知りました。

「わー！そうだったのかー！」と。

「そーなの、そーなの！ねー。ステキな企画だよねー」とナオ。

ほんと、ステキ。なんか、なんていうか粹だなあと感激してしまう。

が、ふと一つ気になってしまったことが。

注文時、何が起こるのかな？とわくわくのあまり、

「えー何にしようかなー。ピザかなー。あ、でも注文間違ってくるかもなんですよね！？(笑)」なんて無邪気に言った私、それに対してスタッフさんが

「いえいえ、うー、がんばりますので」とおっしゃった時のこと。

傷つけてしまわなかったかとても気になった。

こっそりナオに相談する。と、

「いやいや、“注文を間違えるレストラン”という枠組みがあるから大丈夫だよー。概要を知ってる人にも知らない人にも楽しめるよね～」と。

なるほど、概要を知ってるお客さんにとっても、知らないお客さんにとっても、また働く方にとっても、構えずに済むように、そして人と人とは繋がっていきやすいようにこの“枠組み”がサポートしてくれているのだ。

オシャレで美味しくて、しかも、必然をシンプルに楽しく届けようとする企画者・小国さんの粹な計らい、多くの人に届けるべく拓けた心意気に感動する。

あまりの居心地の良さに不思議と時間の感覚がなくなって、美味しいご飯とその空間を思い切り楽しんで居たところ、案内があって、すぐ隣のピアノののに一組のご夫婦が。奥様は配膳をされてたスタッフさんの一人で、ピアノの前に。旦那さまはチェロ。

説明によると、奥様はピアノの専門家だったけど4年前に認知症を抱え、弾き方を忘れてしまったそう。

けれど、ピアノから離れてしまった奥様に「もう一度」と旦那さまが背中を押したそうです。

「最後まで弾けないかもしれないけれど、どうぞ聞いてください」と旦那さまからご挨拶があり演奏がはじまった。

ちょこちょこ演奏がストップするたびにニコニコ頭を抱えながら「すみません」と言う奥様、その度、優しく鍵盤を指して教えられる旦那さま。

なんだかその光景がすごくよくてお二人の関係が圧倒的で。

お二人の向き合っている現実やお気持ちなどを想像してグッときてしまった最初、でもそれもこちらの勝手な想像なので失礼な気もして、とにかく目の前の音楽とお二人の姿に集中しようと心を改めた中盤から、私の中でいろんなことに置き換えられはじめ、やっぱり、とにかく、グッときてしまいました。

性別、年齢、病気の有無、etc.が、“ちがい”としてきちんと受け止められ、バランス良く成立する空気を目の当たりにしたような。

“平等”を信じさせてくれる瞬間の連続にピュッと涙が出てしまいました。

ご夫婦にとっては日常の 1 ページのはずだし、泣くより笑う方が合ってる気がしていろいろがまんしましたが、そのせいか余計泣いてしまいました。

この『アヴェマリア』は忘れられません。

今回はプレオープンイベントで6/3~4のみ開催でしたが、今後、クラウドファンディングなどで資金を集め、9月をめどに、約1週間の本オープンしたいそうです。

ぜひこのレストランを多くの皆様に体感していただきたい！！